

## 家庭部会

### < 県研究主題 >

家族の一員として生活をよりよくしようと主体的に工夫する能力や実践的な態度を育てる学習指導と評価の工夫・改善

### 提案 1

提案者 岩本 るり子（足柄下地区）

### < 研究主題 >

実践的・体験的な活動を通して、「してもらう自分」から「できる自分へ」そして、家庭・社会の一員と自覚し、よりよい生活を目指して

### 1 提案内容

「家族の一員として生活をよりよくしようと主体的に工夫する能力や実践的な態度を育てる」とは、自分一人だけの学習ではなく、学んだことを家庭や社会に生かし還元することであるととらえた。子どもたちの家庭生活の状況・実態をふまえ、子どもたちが家庭や地域とより一層つながるためには、家庭科の授業で学習したことを実際の生活の中で実践することが重要である。学んだことを相手を意識して実践し、また体験を通して理解に結びつけたり、自信につなげたりしながら自らが考えて行動できる「してもらう自分」から「できる自分へ」成長してほしい。

#### (1) 主題への迫り方及び研究の方法と内容

##### ア) 2 学年間の「学びのストーリー」の作成

2 学年間を見通すことによって、児童の実態、学習指導要領のねらい、家庭生活、家族、地域、他教科と関係づけながら、具体的に考え、意欲を持続させることをねらいとする。

- ① 学びのストーリーのイメージを構想図で表現。
- ② 学びのストーリーを階段の形で表し、2 学年間の見通しをもって学習に取り組ませる。

(5 年生では、相手を意識した自分、6 年生では、快適を実践できる自分になることを意識させる。)

- ③ できるようになったことを付箋で記入していくことにより、視覚的にもできるようになったことを児童に実感させる。
- ④ 2 学年間を見通すことにより、意欲を持ち続けるようにする。
- ⑤ 階段の形で表すことにより一歩ずつ学習を進めていくことを確認し苦手意識をもたせないようにする。

##### イ) 基礎的な能力を身につけるための工夫

###### ① 教室環境の工夫

少しでも活動や作業に多く取り組めるようにする。また、一人ひとりの児童に支援できるように指導者の教室内での動線が短くてすむように考える。

###### ② 栄養士・ボランティアの活用

###### ③ 繰り返しの学習

基礎的な技能を身につけるために、スキルの習得からスキルアップへと進められる学習の流れを考える。

### (3) 実践的・体験的な学習活動の工夫

- ① 相手を意識させた学習活動の取り組み
- ② 日本の良さ、地域の良さに着目させる学習活動の工夫

## 2 協議内容

### (1) ボランティアについて

- ・クラスの保護者に頼んだ。子どもが主人公になるように子どもに聞かれたときに支援をしてもらうように決めている。また、他のクラスと比較したりなどはしないようにしている。

### (2) カリキュラムについて

- ・提案のカリキュラムは、本校としてのカリキュラムである。「魅力ある学習づくり」として学校全体で取り組んでいる。また、5年生と6年生担任で声をかけあい、お互いに共通理解をして作成している。

### (3) 子どもたちの自分なりの工夫について

- ・「使いやすいためには、どんな工夫をしたらよいか。」と投げかけた。するとポケットをつけた子などがいた。機能的に作られているかを見て、評価をした。

### (4) おせち料理の題材について

- ・それまでに身につけた技能的なもの（包丁の使い方、切り方の学習）を生かした。

### (5) 2学年間を見通した題材構成で、目指す子どもの姿について

- ・玉どめなどの技術面をしっかりとおさえている。やらされているのではなく自分で快適な生活をするために学んだことを家庭で生かす子どもになってほしい。

## 3 まとめ

- ・学習指導要領解説などを是非手元において実践をしていくことが大切である。  
教科の目標を再確認し身につけた技能が家庭を大切にしている心情をはぐくみ、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることを目指していく必要がある。
- ・本実践では「学びのストーリー」を工夫した取り組みであったが、5年生でのガイダンスの授業がとても重要になってくる。
- ・「学びのストーリー」は、各学校の実情に合わせて作成すると良い。そして、こういう子どもたちを育てているということについて共通認識をもてるとよい。
- ・ミシンの学習については、小中連携が必要である。小学校で繰り返し学習し、中学校へつなげたい。時数に制限があるが、繰り返し学習の効果を期待する。
- ・具体的な評価規準をしっかりと設けたい。
- ・2年間の年間計画については、**してもらって自分からできる自分**に成長できるよう、見通しをたてて作成してほしい。また、小・中の連携も重視し、子どもたちの中学校での姿も見通して指導をしてほしい。
- ・ボランティアの活用については、打ち合わせ等を行い指導者の意図が十分伝わるように配慮して慎重に扱う必要がある。

## ＜研究主題＞

心豊かな生活を進んで創り出す子どもをめざして

「なりたい自分・できる自分・生かす自分」

## 1 提案内容

題材名：工夫しようさわやかな生活～めざそう！さわやか夏スタイル～

日本には四季があり、季節によって気温や湿度などが異なる。快適な生活を送るために、その季節に応じた暮らし方や、暑さ・寒さへの対処の仕方を工夫することが必要である。自然をできるだけ生かして住まうことの大切がわかり、自分たちの工夫次第で、快適な生活を送ることができることに気付かせたい。題材を通して、日常着の着方や住まい方への関心を高め、基礎的・基本的な知識を身に付け、快適な生活の仕方を考え工夫する能力を育てたい。

## ＜テーマに迫るための手立て＞

(1) 実践的・体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れる。

- ① 温度、風通し等の住生活の実験や、布地の色や材質等の衣生活の実験を通して、快適な着方や住まい方について実感を伴って理解できるようにする。
- ② 実験を通して得た知識や、これまでの経験を活用し、出かける場所、活動内容、気温等に応じて、どのような衣服を選べばよいかを校外行事との関連を図り、学習に取り入れる。
- ③ 快適に過ごすための住まいの工夫について、家庭で実践する機会をつくることで、家族の一員として生活をよりよくしようとする態度を育成する。

(2) 家庭科における言語活動の充実を図る。

- ① 衣生活などの生活の中の様々な言葉を、実感を伴って理解する学習活動として、衣生活や住生活の実験を行う。実験を手がかりに、自らの生活と結びつけて考え、児童自身の生活の中で生きた言葉へとつなげていく。
- ② 自分の生活における課題を解決するために、言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりする。体験したことを振り返ってまとめたり、比較したりできるワークシートを活用する。また、小グループで表現したり話し合ったりするなどの学習活動を充実させる。
- ③ 家庭での実践を通して気付いたこと、考えたことを相手に伝える「レポート作り」を行い、気付きや学びをしっかりと振り返り、それをもとに自分の考えを深めてこれらの生活につなげていけるようにする。

(3) 家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的態度を育てる。

- ① 学級通信などで学習の様子を詳しく知らせ、快適な生活について家族で話し合うきっかけを作る。日常着の着方や住まい方の工夫を考えたことをもとに、家族の一員として、学習した知識・技能を生かせるようにする。
- ② 快適な住まい方を工夫する計画を立て、家でも実践する機会をつくる。その際は保護者に協力をお願いし、取り組みへの感想をいただき、家庭で実践する喜びや自信を育てるようにする。

## 2 協議内容

実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習の工夫について

### <提案授業について>

- ・実験を通して実感を伴った活動ができている。子どもが、生活を振り返る機会になった。
- ・家庭科と校外学習を結びつけたことで、共通意識が持てて良い。本来の目的と、家庭科の目的が二つになってしまいそうという意見もでたが、あくまで校外学習は鎌倉の歴史学習を中心としており、家庭科の部分は、できる限りで行うというようにして授業をすすめていた。
- ・ワークシートもとても工夫されていて良かった。それをまとめたノートは、学びの足跡が残るものであった。2年間を通した学びとするためにノートを2年間分まとめると良いのではないか。
- ・「日常生活を振り返る→実験（実感）→生活に生かす」の流れが大切。今回、「快適に過ごすためにはどうすればいいか」という導入から入っていたのが良かった。実験も楽しそうだった。子どもたちが、服の機能に着目できるようになっていた。

### <質問>

- ・実験方法はどのようにして決めたのか。→子どもたちみんなで課題をしぼって決めていった。実験方法は子どもの声をもとに、細かい部分は教師が決めた。
- ・研究テーマの「できる自分になりたい自分」は教師の願いか？子どもが考えたものか？→教師の願いもあるが、子どもたちにも「どんな自分になりたいか。」ということを考えさせている。
- ・ワークシートの作り方で工夫していることは？→「気が付いたこと」「分かったこと、考えたこと」を書かせるようにしている。どのように書き込んだらよいか分からない子もいると思うので、簡単な見本を見せるようにしている。視覚的にも分かりやすいように工夫している。
- ・他の教科でも、ワークシートやノートを活用する言語学習に取り組んでいるのか。→すべての学習ではないが、他の教科でも取り組んでいる。

### <その他>

- ・家庭での実践は、各家庭の事情も様々あるので難しいところもある。

## 3 まとめ（助言）

### ① 生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てるには

「したほうが良い。」「することが大切。」という価値観の形成→自分にもできそうだという自信→実践的な態度

### ② なぜ実践的・体験的な活動や問題解決的な学習に取り組む必要があるのか

場面に応じた知識や技能を使いこなすなどの意味や面白さに気付いたり、自分にもできたという自信を持ったりすることができる。そして、生活に生かそうとする意欲が高まり、知識や技能が身に付く。生活の様々な場面で状況に応じて知識や技能を活用する能力が育成される。（良い連鎖が生まれる。）

### ③ 家庭で実践することの意義

繰り返しにより、知識・技能の定着を図ることができる。実際の生活で活用できることを実感し、自分にもできるという達成感や満足感を味わったり、家族の一員として、家族の役に立っているという喜びを実感したりできる。家庭生活の大切さに気付き、家庭生活への関心を高めることができる。